

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0793100041		
法人名	株式会社エコ		
事業所名	グループホームみはる1階		
所在地	福島県田村郡三春町字一本松26番地		
自己評価作成日	平成28年8月16日	評価結果市町村受理日	平成28年12月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成28年10月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

長年住み慣れた三春町の四季折々の季節を眺め、馴染みの商店や人々とのふれあいを続けています。老人作品展に参加、皆で作品を作成しています。一人ひとりの出来ることを活かし、毎日生きがいを持って暮らしていけるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 地元の老人作品展へ毎年出品したり、祭礼の神楽や獅子舞を披露して頂くなど、地域との付き合いが継続できるよう支援している。
 2. 防災訓練を毎月計画的に実施し、地域の自衛消防操法大会に参加するなど、防災に対する職員の意識が高い。
 3. 法人から月2回マッサージ師の訪問サービスがあり、利用者は会話をしながら、手足の指圧やフェイスパック、手指や爪のケアなどを受けており、身だしなみも良く、表情も非常に明るい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念について、会議や朝礼などで話し合い、職員全員が実践出来るよう一丸となって取り組んでいる。	平成26年4月に理念の見直しを行い、事業所内に掲示したり、朝礼などで職員全員で唱和をし、共有を図りながら実践に繋げている。また、会議などで日々の実践内容が、理念に沿っているか振り返りを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りでは、事業所にて神楽を披露して頂いている。毎年、老人クラブの作品展に参加している。馴染みの商店を訪れ、地域の方々と交流を図っている。	自治会に加入し地域の一員として、日常的に交流を図っている。また、地域の行事などにも積極的に参加したり、馴染みの商店に買い物に出かけたり、ボランティアなどを受け入れ、交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所を訪れた方に、認知症について話し、理解を深めて頂いている。それに伴い、事業所では、どのようなサービスが提供されているのかを説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	運営推進会議にて入居者の日々の暮らしの様子や行事等の取り組みについて意見を頂き、サービスの向上に活かしている。	会議は定期的開催され、会議メンバーからは多くの意見が出され、サービスの向上に活かされているが、自己評価や外部評価結果の報告について話し合われていない。	自己評価や外部評価結果などの報告を行い、委員より意見・助言を頂くなど改善に向けた取り組みについて話し合っ欲しい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市町村担当者が出席している為、困っていることがあれば相談し、協力頂いている。	事業所の運営状況など、定期的に町担当者に報告したり、介護保険制度に関わる手続きや、マイナンバーの取扱いなどについて、相談を行うなど協力関係を築いている。また、運営推進会議の中でも情報交換を行い、連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に参加し、管理者の指導の下、各職員が身体拘束をしないケアを理解し、実践している。	内外の研修を通して、身体拘束の内容と弊害について学び、管理者が中心となり身体拘束をしないケアに努めている。また、家族とリスクに関する話し合いも行っている。日中の玄関の施錠は行わず、見守りで対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、伝達講習を行っている。間違ったケアが提供されないよう、職員同士が注意を払い、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、制度への理解を深めている。現在利用されている方はいないが、いつでも利用出来る態勢となっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時には、書面にて十分説明を行い、入退居に際して不安がないように対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議において、家族代表から意見を頂き、内容によっては早急に対応している。また、意見や要望は職員会議で協議し、運営の向上に反映させている。	利用者からは日々の関わりの中で、家族からは面会時や運営推進会議の中で、相談や要望を聞いて、職員間で話し合いを行って、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人では、定期的に管理者の面談を実施している。また、職員の要望や提案を随時受け付ける体制が整っている。	管理者による定期的な個別面談を行い、意見や要望を聞いている。また、管理者は日常業務の中でも、職員に対して声掛けを行うなど、言いやすい環境作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人は、資格取得支援や日祝日手当の支給等を行い、職員が向上心を持ち、働きやすい環境作りを目指している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人では、職員の力量に応じた研修が計画されている。社内外の研修にも積極的に参加出来る体制になっており、職員の資質向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス事業所連絡会の会議にて事業所の活動内容の情報交換を行っている。また、災害時に協力し合えるよう、協定書を交わしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事業所見学や実態調査の際には、ご本人の言葉を傾聴し、信頼して任せて頂けるような雰囲気作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の意向、要望等を確認し、今後どのような方向性で支援を行えば良いのかを、ご家族と共に話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の現在の状況、要望等から、最適なサービスを受けられるようにする為、他サービスも検討し、話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と職員は一緒に食事作りやレクリエーション等を行い、共に暮らす、馴染みの関係が築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様に何かあれば、ご家族に相談し、職員だけで物事を進めることなく、共に本人を支える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	町内の馴染みの場所に出掛け、友人や地元の人とふれあい出来るよう支援している。	理髪店や商店、花や紅葉の名所地など、これまで関わってきた馴染みの人や場所に出かけ、友人や地元の方々との交流を図っている。また、以前働いていた場所を訪問するなどの支援もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で作り物や、お手伝いを行っている。出来ない方がいると、助けている姿があり、職員が介入しなくても、支え合う関係が出来ている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も事業所に遊びに来られた時や地元で会った際には、気軽に声を掛けて頂いている。必要に応じて相談を受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、言動等から本人の意向を汲み取るようにしている。意思疎通が困難な方には、表情や行動から意向を把握している。	日々のゆったりした雰囲気の中で、希望や意向の把握に努めている。困難な利用者については、家族などから情報を得たり、仕草や職員が思いを読み取りながら、本人本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人ひとりが、どのように暮らしてきたのか、これまでの生活歴等を把握し、今後どのようなサービスを提供すれば、生活の質が向上するのかを検討している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前にご本人やご家族から詳細に情報収集し、入居後も日々関わりの中から新たな情報を把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に1度定期的なモニタリングを実施しているが、利用者様の状態に応じてモニタリングやアセスメントを実施している。ケース会議前に関係者から意向を聞き、課題やサービス内容を協議している。	利用者や家族の要望や意向と、担当職員の意見などを加えて、利用者の残存機能を活かした、介護計画が作成されている。また、利用者の状態が変化した場合は、モニタリングやアセスメントを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子を個別に記録し、気づきや変化は、日誌に記入し、職員間で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の希望に応じて、外食やドライブを実施している。その他、ご本人やご家族の要望があれば、協力し合いながら、事業所内のサービス以外の支援も検討している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの慰問や地域行事に参加し、社会資源を活用している。地域の方々から助言を頂きながら、豊かな暮らしを提供出来るよう取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望により、訪問診療体制が整っている。かかりつけ医も継続することが出来る。	これまでのかかりつけ医を継続できているにしているが、殆どの利用者は事業所の協力医を希望している。通院付き添いは原則事業所が行っており、その結果は電話や面会時などに適切に報告されている。緊急時もスムーズに受診できる体制が取られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度医療連携の看護師が訪問し、健康管理を行っている。利用者様の健康状態について相談し、適切な医療につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後定期的に病院に面会し、医療関係者と情報交換を行っている。ご本人もご家族も、安心して早目に退院出来るよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の方針を書面にて確認している。終末期に入った場合には、再度書面にて意向を確認している。終末期には医療関係者と連携し、実践している。	利用契約時に重度化や終末期の方針を本人や家族に説明している。状況変化時には、医師や家族、職員が話し合い方針を共有しながら、状況に応じ支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当、心肺蘇生法の訓練を定期的に行い、繰り返し学ぶことで、実践力を身に付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月防災訓練を行っている。消防署立ち合いの訓練の際には、地域の方々にも参加して頂いている。	消防署の協力を得た避難訓練や、地域住民が参加した避難訓練、防災機器の操作訓練など、色々な災害を想定した訓練を毎月計画的に実施している。また、地域の自衛消防操法大会にも参加している。非常用食料や備品を準備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	サービス提供時の声掛けについて、どのような言葉が適切なのか会議の中で話し合い、人格を尊重したケアが提供出来るよう努めている。	一人ひとりの人格やプライバシーに配慮した対応を徹底するため、マニュアルを整備し研修を行い、管理者がミーティングや会議などで指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で、入居者が思いを表すことが出来るような雰囲気作りに努め、思いを把握している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの状態や希望に添い、自由に過ごして頂いている。ご本人のリズムを大切に、レクリエーションへの参加も意思を確認し、実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類に関しては、季節に応じ好みの物を選択して頂けるよう支援している。本社のマッサージ師が訪問し、顔のパックやフットマッサージを提供している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	入居者から食べたい物を聞き、調理を共にしている。職員と一緒に食事を摂り、楽しく会話しながら食事をしている。	法人から献立と食材が届けられているが、その日の天候や利用者の希望に合わせて、献立を一部変更し対応している。また、季節の行事食や希望外食などの支援もしている。利用者は、食事の下準備や配膳、下膳やテーブル拭きなどを行ったり、職員と楽しく会話しながら一緒に食事している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事摂取量を観察し、不足している時は好みの物で補給している。食べられなくなってきた方には食事形態を工夫したり、好きな物を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。本社の歯科衛生士の訪問があり、口腔ケアに関する助言を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記入し、一人ひとりの排泄パターンに応じて、トイレ誘導や介助を行っている。	トイレは各居室にあり、快適に保持されている。羞恥心に配慮した声かけを行い、排泄チェック表や表情などから、一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるよう支援している。自立に向け取り組みを行い、その効果が見られる方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や乳製品を取り入れ、軽い体操を行い、便秘を予防している。下剤を使用する際には、医師の指示の下、使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時の声掛けの工夫や、音楽をかけての入浴、入浴剤の使用等、リラックス出来るよう支援している。	現在週2回、利用者の希望に合わせて入浴をして頂いている。また、入浴を拒む人には、職員を変えたりタイミングを見計らい対応している。菖蒲湯やゆず湯を行ったり、音楽を掛けたり入浴剤を使用して、楽しく入浴ができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はソファや和室で休息して頂いている。夜間は、居室の室温を調整し、快適に休んで頂けるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容は個別記録に記入し、薬の内容や副作用について理解している。服薬時はマニュアルに沿って対応し、誤薬を防止している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが出来ること、縫い物、飾り物の作成をして頂いている。歌や体操等で気分転換を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	月に1度のドライブを予定しており、町内の様々な場所に出掛け、馴染みの食堂や美容院に出掛けられるよう支援している。	天気の良い日には近隣を散歩したり、買い物や食事、美容院などへの外出支援をしている。また、桜や紅葉の名所地にドライブしたり、家族との外泊や墓参りなど、希望に応じた外出ができるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の希望があれば、職員が同行し、金銭を所持されている方には、見守りながら支払って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族やご友人に電話をかけたいと希望があれば、ご家族の了承を得て、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には、季節の飾り付けを行い、入居者が作った作品を掲示している。飾りには、入居者の希望も取り入れている。	共用空間には利用者と一緒に作った季節の飾り物や行事写真が飾られている。また、ソファやテーブルは、利用者が利用し易いように配置され、換気や消毒を定期的に行い、清潔で快適な環境になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中は、ソファでゆったりと過ごされている。気に合った利用者同士で気兼ねなく過ごしている様子がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	各居室には、馴染みの家具や大切にしていた物を持ち込んで頂き、自宅にいるような感覚で暮らしていけるようにしている。	居室はプライバシーに配慮されている。本人や家族と話し合いながら、馴染みの家族写真や位牌、テレビや椅子など思い思いの物を持ち込み、その人らしく暮らせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の状態に合わせて、手摺りを設置したり、家具の配置を工夫したり、安全に過ごして頂けるようにしている。		